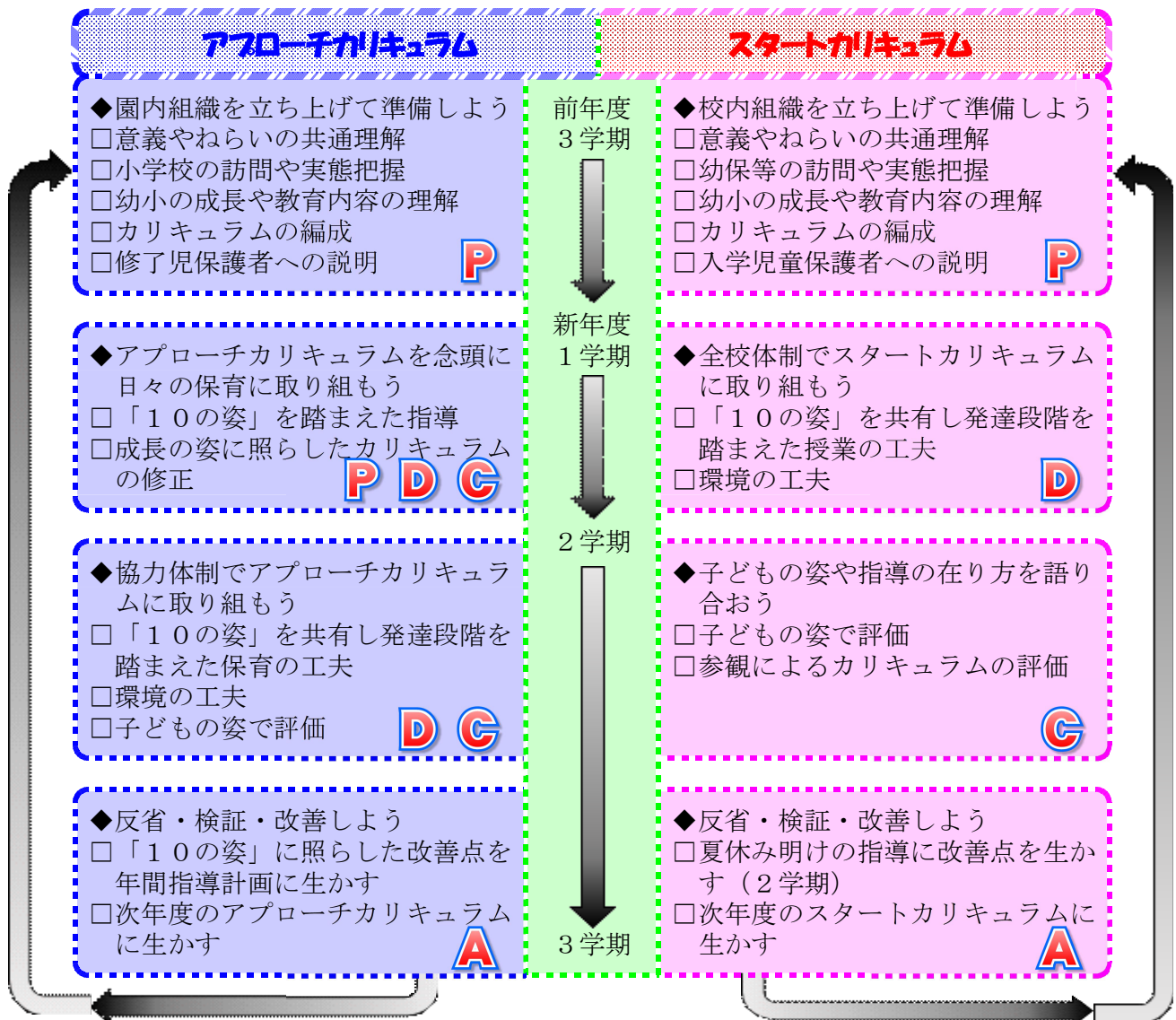


## 7 接続期カリキュラムの活用と評価・改善

### (1) 接続期カリキュラムのマネジメント

評価・改善などの一連のカリキュラムマネジメントを適切に行い、接続期カリキュラムの質を向上させ、子どもたちのよりよい成長が保障されるようにすることが大切です。



### (2) 接続期カリキュラムの活用

幼小双方の子どもたちのよりよい成長を支えるために、次のような取り組み例を参考に、効果的に活用することが望めます。

- 育ちを考慮した環境設定
  - ・ 小学校 …安心できる環境づくり（一日の流れの掲示、机の配置、トイレの使い方等）
  - ・ 幼稚園等…就学を意識した環境づくり（一日の流れの掲示、数や言葉を意識した掲示等）
- 年度当初の相互交流
  - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基にした授業参観・保育参観や協議等
- 保護者の不安解消と理解・協力
  - ・ 就学前後の保護者の説明に活用することで、就学への不安を解消し信頼関係をつくる。

作成委員 ◎八巻博之（東和小校長）○黒沢道子（川崎幼稚園長） 吉川奏子（石井小教頭） 騎西克枝（岳下小教諭）  
 平野明美（川崎小教諭） 佐藤良子（塩沢小教諭） 古川祐子（杉田小教諭）  
 榎田由香里（いわしろさくらこども園保育教諭） 國分晃子（とうわこども園副園長）

教育委員会 丹野 学（教育長） 原田真一（学校教育課長） 安齋憲治（管理係長） 遠藤幸栄（指導係長）

作成委員 高橋政喜（指導主事） 二谷京子（指導主事） 鹿目敦子（指導主事） （◎：委員長 ○：副委員長）